



2022年5月30日  
公益財団法人イオン環境財団

## 第7回「イオン生物多様性みどり賞(国内賞)」公募を開始

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は、6月1日から7月15日まで第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」の公募を行います。

当財団は、2010年に名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されるのに先立ち、2009年に環境省との共催で国内賞「生物多様性日本アワード」を創設しました。また当財団の設立20年を契機に、国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設しており、以来、国際賞と国内賞を隔年で顕彰してまいりました。本年は、国内賞を開催いたします。

また設立30年を迎えたことを機に、生物多様性の課題にさらに取り組むべく、国際賞・国内賞ともに「イオン生物多様性みどり賞」へ名称を統一し、国内外の生物多様性に関わる環境活動をより一層支援してまいります。

国内賞は、国内の学校・団体・企業・個人を対象に「生物多様性の保全、持続可能な利活用、普及・啓発・共有に関する取り組み」を広く公募し、顕著な事例を顕彰するものです。これまでの10年間でNPOや企業、学校など33団体の環境活動を顕彰してきました。

当財団は、これからも、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、様々な環境活動に取り組んでまいります。

### 第7回「イオン生物多様性みどり賞（国内賞）」概要

公募期間：2022年6月1日（水）～2022年7月15日（金）

応募資格：国内の学校・団体・企業・個人  
（複数の学校・団体による共同プロジェクトを含む）

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利活用、生物多様性の普及・啓発・共有

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省

顕彰内容：グランプリ1件 副賞300万円

優秀賞4件 副賞100万円

授賞者フォーラム：＜日程＞11月24日（木）

＜場所＞国際連合大学3階 ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区神宮前）

応募方法：当財団ホームページを参照ください <https://www.aeon.info/ef/>

以上

ご参考

歴代受賞プロジェクト一覧（優秀賞の順序は団体名の五十音順）

回／年度		団体名	受賞プロジェクト名	活動地域	団体所在地
第1回 2009年	グランプリ	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社 ／株式会社 田中酒造店	利用フィールド部門：地域企業との協働による谷津田の保全	茨城県	茨城県他
	優秀賞	財団法人 知床財団	保全フィールド部門：知床の生物多様性に関する取組	北海道	北海道
		NPO法人 農と自然の研究所	保全リサーチ部門：「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動	福岡県	福岡県
		鹿島建設株式会社	利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践	首都圏 全国	東京都
		コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま ／NPOコウノトリ湿地ネット／豊岡市／ 兵庫県豊岡農業改良普及センター	保全プロダクト部門：「コウノトリ育む 農法」とコウノトリ共生米	兵庫県	兵庫県
		積水ハウス株式会社	利用プロダクト部門：生物多様性保全を 含む10の調達指針	全国	東京都
		中日信用金庫	保全コミュニケーション部門：「生物多様 性について考えてみませんか」定期の取り 扱い	愛知県	愛知県
		サラヤ株式会社	利用コミュニケーション部門：「ボルネオ はあなたが守る！」キャンペーン	マレーシア 全国	大阪府
第2回 2011年	グランプリ	日本雁を保護する会	湿地環境の指標種としてのガン類の保護お よびその生息環境の保全・復元と人間との 共生をめざす活動	宮城県	宮城県
	優秀賞	有限会社 熊谷産業	茅場の保全から茅葺屋根まで－ヨシ原と共 に生きる－	宮城県	宮城県
		NPO法人 ビッキオ	クマ保護管理事業	長野県	長野県
		NPO法人 多摩源流こすげ	山梨県小菅村における多摩川源流大学を 中心とした源流域の自然保全活動と教育 活動	山梨県	山梨県
		株式会社 野田自然共生ファーム	野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
第3回 2013年	グランプリ	特定非営利活動法人 田んぼ	津波に被災した田んぼの生態系復元力に よる復興	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	味の素株式会社	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連 の協働・普及啓発活動	西日本太 平洋沿岸 地域	東京都
		中越パルプ工業株式会社	「竹紙（たけがみ）」の取り組み	九州等	東京都 富山県
		てるはの森の会	綾の照葉樹林プロジェクト	宮崎県	宮崎県
		ネイチャー・テクノロジー研究会 （東北大学大学院環境科学研究所）	ネイチャー・テクノロジー創出のシステム 構築	全国	宮城県
第4回 2015年	グランプリ	一般社団法人エゾシカ協会	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業	北海道	北海道
	優秀賞	株式会社伊藤園	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を 美しく」プロジェクトを通じた生物多様性 保全の取り組み	滋賀県 全国	東京都
		九州の川の応援団／九州大学島谷研究室	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化	福岡県 韓国等	福岡県
		NPO法人グラウンドワーク三島	市民力を結集してドブ川を多様な生き物が すむ「ふるさとの川」に再生・復活	静岡県	静岡県
		気仙沼市立大谷中学校	大谷ハチドリ計画（Ohya Hummingbird Project）	宮城県	宮城県

第5回 2017年	グランプリ	NPO法人 黒潮実感センター	「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」持続可能な里海づくり	高知県	高知県
	優秀賞	宮城県漁業協同組合	国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産	宮城県	宮城県
		一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)	企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発	東京都	東京都
		トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト	神奈川県	神奈川県
		学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校 地歴部	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の 挑戦	岡山県	岡山県
第6回 2019年	グランプリ	株式会社コクヨ工業滋賀	ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト	滋賀県	滋賀県
	優秀賞	株式会社アレフ	生物多様性に配慮した持続的なお米の仕入れ活動	北海道	北海道
		世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	世界遺産白神山地 ブナ林の100年モニタリング	青森県 秋田県	宮城県
		認定NPO法人 穴塚の自然と歴史の会	生物多様性の保全と環境教育	茨城県	茨城県
		愛知県岡崎市立生平小学校	つくろう、野鳥の楽園「ハードピア生平」 —愛鳥や里山保全の活動を通じた自然との共生を図る児童の育成—	愛知県	愛知県

## 歴代グランプリ受賞の取り組み

### 第1回 (2009年)「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



### 第2回 (2011年)「湿地環境の指標種としての雁類の保護および

その生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

雁類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果を「ガン類渡来地目録」等にまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、雁類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「無葉沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



### 第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人田んぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。

また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を享受することができました。



### 第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道においてエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準をクリアしている解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。



### 第5回（2017年）「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」

持続可能な里海づくり

NPO法人 黒潮実感センター

温帯域にありながら熱帯・亜熱帯域を凌ぐほどの生物多様性の宝庫である高知県柏島。暖流黒潮の影響を強く受ける周辺海域は造礁サンゴや藻場が広がり、生息する魚種は国内最多の1,000種を超えている。このプロジェクトは、高知県西南端にある柏島において豊かな自然と、そこに住む人の暮らしとを「島がまるごと博物館(ミュージアム)」と捉え海と人々が育みあう持続可能な里海モデルの創出を目指す活動である。多様なステークホルダーが漁業や観光の視点から生物多様性に取り組み、保全と利活用の両立を実現している。



### 第6回（2019年）ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト

株式会社コクヨ工業滋賀

琵琶湖のヨシ刈りや外来魚駆除などの活動を通じて地域の自然に関わり、その生物多様性の資源保護のために地域と連携した取り組みを行っている。更に、刈り取ったヨシの新たな活用を実現したエコ文具「リエデンシリーズ」を開発し、ビジネスで活かすという企業のCSV事業モデルとなる取り組みである。



#### 【公益財団法人イオン環境財団】

当財団は、1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立されました。設立以来、国内外の多様なステークホルダーの皆さまと連携し、世界各地での植樹を主な事業として、環境活動に積極的に取り組む非営利団体への助成や、環境人材の育成を目指した環境教育など、様々な活動を実施してきました。今後は、持続可能な地域の実現を目的に、各事業をさらに進化させ、地域の皆さまと協働して森づくりに加え、地域づくり、人づくりにも取り組み、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。<イオン環境財団ホームページ <https://www.aeon.info/ef/>>